

特別聴講生の説明に聞き入る参加学生

九州沖縄地区にある9つの国立高等専門学校は、平成24年度より大学間連携共同教育推進事業「高専・企業・アジア連携による実践的・創造的技術者の養成」（略称・9高専連携事業）を実施しています。久留米高専では、黒木が平成24年度に国立高等専門学校機構在外研究員の区分B・協定校派遣として送り出し機関であるモンクレット王工科大学ラカバン（以下、K M I T L）に滞在したことをきっかけに、タイの大学との交流を始めました。黒木がこの在外研究に応募した動機は、工学を教える者として、日本企業の工場進出が著しいタイの現状を肌で感じ、それを学生に伝えたいたいというのが最大の要因でした。K M I T Lの学生と研究内容について議論を重ねるうちに、研究に取り組む熱心さに心を打たれ、学生交流によって互いの技術づくりの基礎と科学の啓発活動

A black and white head-and-shoulders portrait of a man with dark hair, wearing a dark suit jacket, a white shirt, and a dark tie. The image has a grainy, high-contrast texture.

黒木祥光(久留米高専制御情報工学科准教授)

久留米高専の活動報告

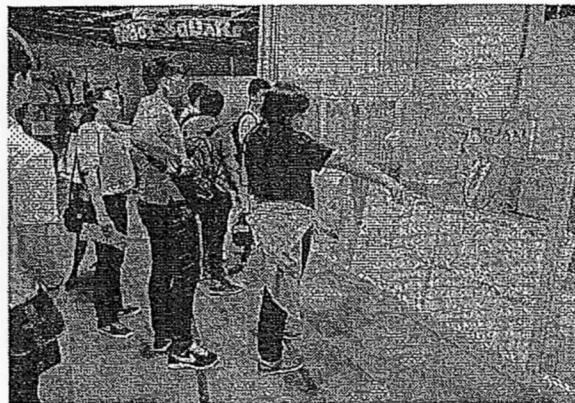
科学技術
振興機構
『さくらサイエンスプラン』友情と感激
第10回

プログラム	
1日目	到着、オリエンテーション
2日目	午前：特別聴講生の訪問（1）
	午後：学内見学
3日目	午前：特別聴講生の訪問（2）、招へい学生による学内プロジェクトの紹介
	午後：電気機器実験の見学、制御情報工学科5年生との交流
4日目	午前：福岡青少年科学館の見学
	午後：技術英語の聴講、プログラミングラボ部との交流
5日目	トヨタ自動車九州宮田工場および安川電機ロボット工場（ただし、台風のため中止。制御情報工学科5年生による九州国立博物館の案内）
6日目	午前：技術英語の聴講、専攻科2年生との交流
	午後：機械加工実習の見学、校長先生との面談
【7日目】	帰国

力向上を行いたいと思うようになりました。
以上の背景の下、久留米高専は平成25年5月にKMITLのKuntpong Woraratpanya助教を約3週間招へいしました。また、同年の夏休み期間に9高専の学生5名が約2週間の日程でタイの3大学を訪問しました。平成26年度に入つて本プログラムを計画した時は6月上旬から7月にかけてKMITLの3年生7名を特別聴講生として受け入れる準備をしていました。本プログラムに応募したのは今後の学生交流をより発展させるために、日本の科学技術について、また、久留米高専について、KMITLの学生に知つてもらうこ

〔高専の幅広い学生と交流〕
7月6日の朝、学生10名が福岡空港に到着しました。招へいした学生は情報学部に所属する学部生5名と修士課程の学生5名で、高専の低学年から専攻科生まで幅広い学生と交流を行うように工夫しました。本プログラムと同時期に9高専連携事業の国際交流推進コーディネータとしてKumDong助教を2週間の日程で再度招へいし、様々な面で手助けをお願いしました。

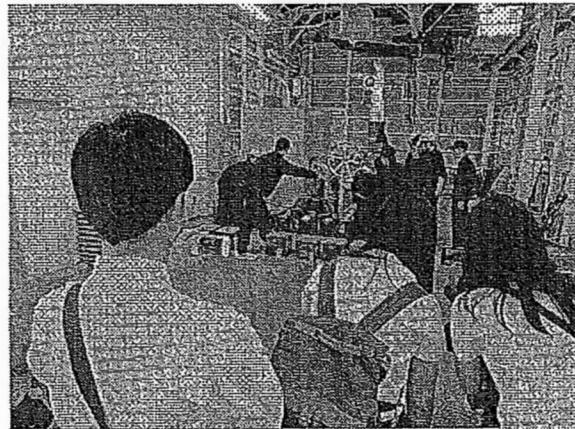
交流内容は将来の再来日を促すため、学内施設や実験・実習見学、特別聴講生として滞在中の3年生による高専の状況説明、久留米



お絵かきロボットに感心する招へい学生



制御情報工学科5年生とクラス交流



機械加工実習の見学



高専プロコン特別賞の作品で質問する参加者

「高専生」との交流会、などを行いました。また学外見学として福岡県青少年科学館、トヨタ自動車九州宮田工場および安川電機ロボット工場の見学を計画しました。以下、その中のいくつかについて紹介します。

特別聴講生との交流では、受け入れ研究室にてプロジェクト内容や寮での滞在の様子などについて説明を受けました。

【約10名の班を作り会談を楽しむ】

制御情報工学科5年生との交流では、初めに互いの学校紹介をした後、双方の学生から成る10名程度の班を作り、会談を楽しみました。学生同士でFacebookやLineなどのIDを交換していました。また、各種プロコンでの活躍を目指すプログラミングラボ部と交流し、本科3年生が活動状況や、全国高専プロコンで特別賞を受賞した作品について紹介しました。共にIT技術者を目指す学生としての交流ができました。専攻科2年生とは技術英語の授業を通じて交流を行いました。授業ではKuntpoong助教が国際会議と同様の形式で進行し、専攻科生が研究のプレゼンを

行いました。K M I T Lでは学生の研究を推進させるため、1年で修士課程を修了するプログラムがあります。招へい学生がより高度な研究を行うため、日本の博士課程への進学を希望してもらえればと思つています。

〔学外見学は福岡県青少年科学館〕

学外見学として、青少年に科学技術を啓発している状況を伝えるため、福岡県青少年科学館を選びました。ジャイロ効果やベルヌーイの定理を直感的に学ぶ道具や、お絵かきロボットなどに大変感心したようです。7月10日はお絵かきロボットを作成した安川電機のロボット工場およびトヨタ自動車九州宮田工場の見学を計画しましたが、残念ながら台風8号の九州上陸が予想されたため、断念せざるを得ませんでした。しかし、台風の影響は予想より少なかつたため、学生交流で友達になつた高専生が九州国立博物館を案内してくれました。学生交流の面では災いが転じて福となつたようです。

実習見学では特に機械加工実習に魅かれた

得ませんでしたが、北九州高専にて学びました。他の招へい学生1名も電気通信大学に留学する予定と聞いています。本事業により国際交流を大いに充実することができます。交流内容に関する高専生のアンケートでも「大変有効であつた」との回答率が大変高く、国際的に活躍できる技術者の育成に大きく寄与したと考えて います。